



支援先グループ名	支援国名	今年度支援額 [送金月]	支援・活動内容他
1 PSHF (フィリピン自立援助基金) Philippine Self Help Foundation タリセイグループ	フィリピン 	400,000 円 [17.6] *91年～ 毎年支援	所得向上のための少額ローンを個人またはグループに貸付けることで支援するプロジェクト。3プロジェクトを支援しました。 ①ジョーイ・M・ザモラ：26歳の看護師で、糖尿病の祖父の面倒を見ている。レストラン（ランチ、ホームメイドのケーキ他）を出す計画で、バコロド市の市場近くに店を見つけました。賃料の不足分、備品、供給品購入の運転資金のためにローンを申請。②タリセイの漁師：小さな貧しい漁師の村(29戸)。4人の漁師が網の購入や、ボートの修理、新しいボートの購入等で、ローンを申請。月に4,000ペソ(約8,000円)の所得向上を期待しています。③リナオンの漁師：3人の漁師が、エンジンや新しい網の購入で漁の改善をしようとローンを申請。漁獲高を増やしてそれぞれが月に2,000ペソ～3,000ペソ(約4,000～6,000円)の所得向上を期待しています。
2 AVILASH アビラッシュ (AVILASH-A Voluntary Welfare Organisation for Women) 託児所の子供たち	インド/カルカッタ 	104,849 円 [18.1] *93年～ 毎年支援	1989年アジア学院の卒業生が設立。自立支援と教育を目的とした活動を通じ、女性による所得向上プロジェクトも行っています。「美容師職業訓練-6ヵ月コース」には、合計16名の女性が参加しました。訓練で技術を習得後は、地元美容室に就職したり、自分で美容サービスを始めたりしています。貧しい家族の所得向上が期待されます。「アクリシュナランプールの託児所」には、低所得層の両親をもつ21人の子供たち(2-6才)が通っています。基本的な教育や、学校に通う習慣を身につけ、集団生活も経験します。ほとんどの子供たちは、小学校レベルでは他の子供たちと比べて成績が良いそうです。
3 カラ=西アフリカ農村自立協力会 Association Pour La Cooperation et L'Autogestion Rural en Afrique d'Ouest  5人のKMTと村での報告会	マリ 	200,000 円 [17.6] *94年～ ほぼ毎年支援	職業訓練、保健、教育の村単位のプロジェクトを行なっています。代表の村上一枝氏は、砂漠化の進む西アフリカの農村に住む人たちが自らの意志、力で生活自立できるようにプロジェクトを進めています。クリコ県トウンバコミュンにおける「7ヵ村の女性健康普及員(略称KMT)の育成事業」を支援しました。各村から女性5人、合計35人のKMTが誕生しました。識字率が低く(ほぼゼロに近い)、研修は口述や絵を使用して行ないました。研修後は、村人に口述による学習会を開催、知識を伝えます。
4 (学) アジア学院 (アジア農村指導者養成専門学校) 入学式 2018.4.14	日本 	100,000 円 [18.4] *94年～ 毎年支援	アジアその他、発展途上国の農村地域社会の人々の生活向上と繁栄に献身する中堅指導者の養成を目的として、栃木県那須塩原市に1973年に設立された学校法人です。有機農法による自給自足の生活を基盤とした研修を行っています。卒業生が母国に戻り、自らNGOを始めたり、既存の団体に参加して、WFFやILCAにコンタクトしてきています。毎年、15～16ヵ国から25～30人が農村指導者養成の研修プログラムに参加し、9ヵ月間、いのちを支える「たべもの」作りにこだわり、自国のコミュニティーの自立を導けるよう学びます。2018年はアジア、アフリカなど16ヵ国、27名の学生と3名の研究科生を迎えました。
5 SEEDS シーズ (Socio-Economic Educational Development Service India: 社会・経済・教育・開発サービス) 洋裁訓練プロジェクト	インド/南部ケララ 	226,947 円 [17.6] *95年～ 毎年支援	1989年にアジア学院の卒業生のマシュー牧師が設立。カーストの低い人々、障害を持つ人々が自活できるように、雇用の場を作ったり託児所の開設、母親の衛生教育、苗木の育成・配布などを実施。夫人は、聾啞の女性の自活のために、菩提樹の葉のカード作りプロジェクトを実施しており、ILCAでも販売しています。「鶏小屋プロジェクト」は、3つの不可蝕賤民の村で11(昨年12)のダリトの家族に鶏小屋を配布しました。昨年の受益者たちが41羽(昨年は38羽)のひよこを提供し、新旧の3家族の交流会も行ないました。「洋裁プロジェクト」は、近隣の4ヵ所から28人(昨年26)のダリトの少女と夫人を対象に訓練を行ないました。
6 エキュメニカル開発基金 Ecumenical Development Foundation お米の収穫	ザンビア 	116,647 円 [17.7] *99年～ 毎年支援	リーダーのジョン・ニョンドさんとジュディス・ダカさんご夫妻は、いずれもアジア学院の卒業生。人々の所得向上のために、職業訓練(養蜂、洋裁、木工技術等の習得)を行っています。また、性的虐待を受けている女性や少女に職業訓練をし、生きていくための技術を身に付け社会復帰させるプロジェクトも行なっています。種苗床、およびさまざまな緑の野菜作り訓練プロジェクトを行ないました。深刻な水不足の中、訓練を行なえるように「灌漑用滴下キット」を支援しました。このキットを使用することで、バケツで水を運んだりするよりは、効率的に灌漑できます。35名の女性と若者が野菜の種を育てる訓練に参加し、有機農法と自然に優しい害虫駆除法で、種苗床の訓練を行ないました。
7 児童福祉計画 (Child Welfare Scheme) コピラ・セーフ・ホーム	ネパール 	116,494 円 [18.1] *02年～ 毎年支援	英国人のダグラス・マクラガン氏が1995年にネパール人の妻と共に、ストリートチルドレンを中心とした子供・青少年の支援を目的にNGOを設立。ジョティ職業訓練センターの他、地方の村にヘルスセンター、アジャ・クリニックを開設しています。2017年度WFFは、「コピラ・セーフ・ホーム」の職業訓練活動を支援しました。ポカラで唯一のセーフホームで、今年度は、53人の女性と子供たちが支援を受けました。